

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 特発性黄斑円孔手術前後の視機能と網膜移動量、網膜厚の変化』
研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院
共同研究機関名 帝京大学医学部附属溝口病院
研究責任者 眼科 職位・氏名 講師・竹山 明日香

【試料・情報の利用目的】

取得した試料・情報は、特発性黄斑円孔の網膜の形態変化と歪視(物がゆがんで見えること)を手術前後で比較をすることを目的とした研究に利用します。

この研究で得られる成果は、特発性黄斑円孔の患者さんの網膜構造が変化していく過程と視機能の回復がどのように関連するかを調査することで黄斑円孔術後の視力や歪視などの視機能の長期予後の予測につながります。

【他機関への提供】

東邦大学医療センター大橋病院：他機関への提供は行いません。

帝京大学医学部附属溝口病院：収集した試料・情報は解析・管理のため東邦大学医療センター大橋病院(竹山明日香医師)に提供します。提供は研究用ノートパソコンのハードディスクの形式で行います。

【研究に用いられる試料・情報】

試料：試料は用いません。

情報：東邦大学医療センター大橋病院と帝京大学医学部附属溝口病院の各施設で、特発性黄斑円孔に対して硝子体・白内障手術を受けた方の診療録の記載より年齢、性別、糖尿病・高血圧の既往、角膜曲率半径、屈折、眼軸長、眼圧などの情報、術前、術後2週間、1カ月、3

カ月、6カ月、12カ月での視力、M-CHARTSを用いた歪視量(物が歪んで見える程度)、ニューアニセイコニアテストを用いた不等像視量(物の大きさが左右の眼で違って見える程度)、OCT(Spectralis)画像を用いた円孔径(縦・横)、網膜距離、網膜移動量、網膜(網膜内層、網膜外層)厚などの検査結果です。

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2025年3月より利用を開始します。

【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

帝京大学医学部附属溝口病院眼科 教授 今村 裕

【試料・情報の取得方法】

対象者:2020年5月1日～2023年10月31日までに東邦大学医療センター大橋病院眼科において、特発性黄斑円孔に対して硝子体・白内障手術を受けた方25名。

2017年4月1日～2023年10月31日までに帝京大学医学部附属溝口病院眼科において、特発性黄斑円孔に対して硝子体・白内障手術を受けた方の45名。

方法:診療録(カルテ)から抽出したデータを解析します。帝京大学医学部附属溝口病院眼科より情報を提供していただき、東邦大学医療センター大橋病院での情報と合わせて、解析します。

【研究組織】

代表施設名:東邦大学医療センター大橋病院眼科 研究代表者:竹山明日香 役職:講師

【利用する者の範囲】

代表施設名:東邦大学医療センター大橋病院眼科 研究代表医師:竹山明日香 役職:講師、研究分担者として東邦大学医療センター大橋病院眼科の教授1名、助教(任期)1名、大学院生1名が利用します。

共同研究機関:帝京大学医学部附属溝口病院眼科 研究代表医師:今村裕 役職:教授、研究分担者として帝京大学医学部附属溝口病院眼科 講師1名、非常勤医師1名

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

東邦大学医療センター大橋病院 眼科 竹山 明日香

帝京大学医学部附属溝口病院 眼科 今村 裕

本研究に関してご質問のある方、試料や情報を研究に利用することを承諾されない方は、2025年3月31日までに(過去に採取した既存試料を利用する場合)下記へご連絡下さい。申し出のあった方の試料・情報は、利用や他の研究機関への提供を行いません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 眼科

職位・氏名 講師 竹山 明日香

電話 03-3468-1251(代表) 内線 2132

帝京大学医学部附属溝口病院 眼科

職位・氏名 教授 今村 裕

電話 044-844-3333(代表)